

「桜」テーマとした東江の地域づくり
～我が村ぬ我が家の桜が一番！～

沖縄県名護市東江区
東江さくらスーブ(勝負)
実行委員会
事務局長 岸本直也

1 はじめに(東江区の紹介)

名護市東江区は人口約3千人、面積1.18km²、東西に細長く久志大川までと続く。東江は方言でアガリと呼ばれ、名護の東に位置する。58号線より市街地の入り口には、名護そば発祥の地、丸隆そばがあった。西手には名護湾を一望するスポット、東江海岸がある心を和ますサンセットのメッカとして位置づけられています。

また、琉球王朝時代、久志間切当時の名護番所に東江原神ヶ森南麓におかれ明治32年には郡役所・税務署・郵便局・銀行・学校・病院などがあり明治、大正、昭和における行政の中心地として栄えてきました。

東江には、「ばかなろう会」昭和39年11月若衆11人は神ヶ森の景観を美しく次世代に残そうとの思いから桜の植栽を行った。現在も成人会・青年会の活動として除草や肥培管理を行っています。

区では、桜を通じて「久米島村白瀬走川へ桜の植樹」(平成12年6月)「東江区・久米島芸能交流」(平成26年)記念植樹等の親善交流も行っております。



【神ヶ森より東江集落を望む】

2 東江桜スーブ(勝負)設立

本会は、東江桜スーブ実行委員会と称する。2016年より、準備会を発足し東江地内の歴史・文化・桜に関する調査を踏まえ、2017年に実行委員会の設立に至りました。今も昔も東江は最高に面白いを合言葉に、「我が村ぬ我が家の桜が一番」をテーマに第1回東江桜スーブを開催しました。

目的は、東江先人が未来へ残してきた神ヶ森に花咲く「桜」を大切にし、住人を楽しませ心を和ませてきた。家庭ではご先祖が植えた桜のエピソードなどの話題もあり家族のシンボルとして、幸せと共に子孫繁栄を願っています。

桜スーブ(勝負)活動を通して、家庭で愛着を持って大切に育てられている桜を育成推進し、区民相互の親睦と連携を図り、東江の発展、郷土の美化を図り寄与することを目的に「桜スーブ(勝負)」を開催しております。



【東江桜名木認定1号】



【東江桜名木認定2号】

3 桜スーブ(勝負)事業について

主 催:東江さくらスーブ(勝負)実行委員会

場 所:東江地内

活動実績:第1回平成29年2月・第2回平成30年2月・第3回平成31年2月・第4回令和2年2月

審査期間:早咲き一番桜,9月より12月

1月20日から2月10日(第1回目1月20日・第2回目2月1日・第3回目2月10日)

審査委員:東江区長・東江区役員・実行委員・名護さくらの会長

採点方法:咲きぶり・樹齢・樹高・幹周・エピソード・経緯(各3点満点)



【現地審査】



【審査会】

表 賞：優賞(東江桜名木認定)・準優賞・特別賞(オリオンビール一番桜工場長)
特別景観賞・地域功労者感謝状・児童小学生徒図画コンクール



【受賞者表彰】



【図画コンクール作品】

実行予算：収入25万円(協賛金・東江区・寄付金)、
支出25万円(チラシ・事務費・式典懇親会費・記念ボトル・会議費・賞品費・記録費・総会費)

東江さくら村宣言(平成30年2月18日)東江区长 津波一夫

- (一) 桜を愛し、人を愛し優しい東江をめざします。
- (二) 桜と共に区の発展と明るく住みよい東江をめざします。
- (三) 自然・歴史・文化を活かした東江をめざします。

東江さくらマップ作成(令和2年2月作成)

東江さくらマップ
制作発表



【東江さくら散策マップ】

桜苗の植樹と配布(20本から30本)



【記念植樹作業】



【桜苗の無料配布】

シンポジウム

講演会「東江の歴史・文化を語る」

名護市文化財保存調査委員長 岸本 林 氏

フリートーク

「神ヶ森の自然と植物を楽しむ」

やんばる植物愛好者 幸地 光男 氏

「神ヶ森公園策定計画構想(案)」「神ヶ森活かした事業(案)」

(株)沖縄富士通システムエンジニア チームリーダー 多和田 敦 氏

小橋川 歩 氏

総括総評 コディネーター 横田 洋輔 氏(デザイナー東京)

区民交流懇親会



【講演会】



【フリートーク】

4 事業を通しての成果

これまで、東江地域の桜の調査・歴史・文化・言い伝え等の調査を踏まえ実施してきました。この事業は新聞・テレビ(ニュース)・ラジオとマスメディアでも大きく取り上げられ話題となりました。

この季節になると住民のあいさつは「さくら元気ですか!」、「花が咲きましたね!」から話は弾みます。また、住民の意識が高まり58号線沿い桜街道の花壇手入れやゴミ拾いなどが積極的に行われております。日本で初「東江さくらマップ」は区内各家庭へ千部配布しました。マップには、東江の地形・名称・発祥の地・植物・著名人・通り名・市指定文化財・植栽ヶ所と本数などの注記もあり東江を学び、関心を持つようになりました。

5 今後の展望と課題

名護の太陽は神ヶ森、「東江」から登る。先人たちが歴史を築き上げた東江、今に生きる我々は次世代に何を残すのか、何を引き継いで行くのか。

持続的な地域づくりには地域で生まれ育った若者たちが自分の地域に興味を持ち、積極的に取り組んでいく状態を作り上げる必要があると考えております。

地域の若者を含めたコミュニケーションを活性化させるためのフェイスブックなどのSNSや周知と資金集めにクラウドファンディングを活用する、デジタルの力を借りた挑戦も必要と感じております。

活動の展開として、神ヶ森公園構想策定計画、神ヶ森へ各家庭で取り組む桜里親制度、家庭で育てる桜の木植樹など。また、桜木を使用した民具や商品開発などの展開も考える。

名護さくらの会との連携による、名護市55地区に桜スーブ(勝負)実施の協力支援も行っていきたい。

以上

～今も昔も東江は最高に面白い～